

911.1
七
4

井蛙抄

卷四

こもひの山をさるるに物之^の海ありて

ふと波山

拾遺十

結言報た

あゝとありて世にあらんことを思ふをそのつら

丹波國也又出羽の河名千載十^の芝能のちも

大掌會^の平丹波也

をくく山一峯

百八

長命天皇

冬にいづく山よなく麻のあふむる山はさる

山城必^の遠哉道也

百九 ^の 結言

白雪たみだの山乃波の上れをくくはれはひそく橋の

とくはまの穴をぬき山よ平^の浪れ

かゝる心山一^の結言山一^の杜

千載女^の義力報下

ち^のあはれ^の神あひ山の林^のはてしてそのるまふ^のあは

丹波國 大掌會秋也

古今^の忠孝

神あづのこびろのゆとねゆきいぬにたぐるるをりしをよ
よこし人さし

三田河あぢやなす所神あひのみむろねはよ所あぢし
大和國建神なひ山神あはこさけの山不いんえ隠れ
神あづの拈かりこよめと大わし

東み神を川河あといまい海あくはひのてうろし神あ
是も大わしのりすと但古くは源よひはくし
まかえんとし海ありあるよ山崎より神あ
事まをくちまかりよ海ありてうろる大わし

あーー一三あひのあふかよとありあくる
よまのさか

あー一既一何一

古よむのちなりと一の既よかてさる
さくし

おちたまふ所のこれうと幸のり老よとくし
詞あひ不審

青羽川を記入くあを隠しあふくしひのさへいひあふ

古今十二

あまの山松乃けりりかていぞいせりる田舎の秋風一夜
万葉

大産の入のひく地いぢる乃依かん其田舎よりるやうじ
伏見山姆一と乃田舎者くらぬ山城を依かん也
新古今よりしこの世の草花と依らうも山城の
姫一かんかよわ

たご乃じりの講

古
と依れなまのじり波ぬぬりらあは天孫意ぬりい
駿河なを

万十九 家持

田子凡の巻さへ有はとつてゆんこぬ人の
越中国布勢海也あす不て混乱先年一或
他あ古の浦者混よあむぬりるなり一其本一
よせく海一とるる一と故戸部ら程は

万十八

一平乃晴に其書とを記海をのきる記さよめぐし
是ハ後河由也

あまの山松 秋津の小舟 そのうねは

万四

短歌

三芳野のあふらなるはしらのいふかたて

一四一

のくはたきあひりていふかたて
あふらなるはしらのいふかたて

万四

あふらなるはしらのいふかたて

一四二

あふらなるはしらのいふかたて

紀伊小島子細見葛葉集

万七

若菜乃木村の秋津のさくら

山城園地

さけー後ー船揚ー中川ー

万三

あふらなるはしらのいふかたて

大和ゆき

万十四

かばくばの、船橋よりしおやおもくねいふたふあふ
千載十四 源仲總

住かまうしはの、中川津路でるうねらるるかきんしせり
三和別所ざらとて可樂十かよ上野のよのくた
らあまのいもー我まのまんあーいふたふ
よよあふる、舟橋ふねはし回ふん

万三 赤人

和風のよしこ張もふよの思ひんをいふたふあふ
紀伊也

去留一浦一合一赤京一善茶一信也一池
万三

まの浦のよしこ張もふよの思ひんをいふたふあふ
合三

詠あつくよれへいのさあ風は尾花あこころ林のクサ
万三

あまこころ大あふもく白麦しろむぎのまの、赤京のたてゆん
あまこころの思ひん

万三

片墨其物系如こまう山乃同美の志やうこ
くゆるまこも皆大おまなるこ

新古今三

可きい多まの程さうこ墨の毒丸つらにさやあれ
序墨森まがた歳片墨社の社よてはまきん
山城なり新勅推片墨乃社乃本葉もまふ付
ぬとゆるまも回本を能開りまれ目のつけり
すくんし片墨れけろる社そまふ付にま
不 族古今 西行山ふの片墨うけく志むる遊

のらうすまそそるのど柳ましおハカう

すしこ能くろあれ

まのれうし

拾十

二五

り、はせやまらけり角のつらり心乃うら尺端一はるん

五七

う、はせやまらけり角のつらり心乃うら尺端一はるん

志賀まらけり心乃うら尺端一はるん

まらけり心乃うら尺端一はるん

言ひつゝいぬよまなぬ吉野なる六田のよとけり
萬九

博るく六田城の河橋結び、ろくれとありぬまら
大和必也新古今よきまら幾さす六田のよとけり
柳原みまらわきゆくあじまられ河原なる人
一但山城のよとけり六田のよとけり
よー人あまらやーに極よそまら
萬七

いよーくもあやと思ひ、こ吉野の大ふまら
是も回をらるへ

大渡乃招らうくもあやよは恨てのこもら
これハ伊勢國海老也各別の事なれとも山
城渡と心めて人乃不え志するゆゆ
よ書加地よとのけり橋ハ橋付ゆし真流

後西園寺

野よありてゆらよこれハ橋山なりゆたすの溪
是も亦あり

玉川 野田 一 野海 一 一 星 井 多

後拾二

あはれなるはてしなくは昔は人のまゝに
万葉のハハ下白なみそこのはてしたる
とまこれる長巻園也

新古し

能因

夕草の塩屋のてみらのれ野田乃野川
千載曰

千載曰

後拾二

あはれなるはてしなくは昔は人のまゝに
あはれなるはてしなくは昔は人のまゝに

後拾二

相換

えりては波のまゝにこめてきり卯花はける
は三首玉川を和同矣どうい或云陸奥或ハは
のくふり

千載二

後成郷

駒とめて揺球うらん山吹乃まふの落をよみ
は玉川を山城也

後古今

後鳥羽院

玉川乃花の山吹けみえて色なる浪よりの

めじり平の野海玉川井玉川河永天
はき橋 流一まき一 真木一

美田

酒の浦乃流のつき橋心ゆも思ふややりの夏わかんぬ

橋津圃天金業績古今つ下連綿せんけん七しち

うきえてと物知り方こそ成るるまのつき橋の故のて

毛七月以天子我後頼朝長平又まのつき

くしと海と

五十回

あはれとそ原ゆんあましりつ川志る其あつ川橋やまは海え
下総國也け橋代々果連綿

全二

顯伸朝長

又月あし水橋るしじさや川流乃つき橋うはぬ計

大和玉丸け橋其名お州し下は混乱

大原 一 小塩 一 さえの河

朝長十

良暹

大原や海すみ海なるらるの我やあのみそ橋きんる

水山乃大原也

萬石

太くは山のりらくせりりて家ごよむいん使さるる
古今

大原やと山乃山もきよそは林よのさるも思ひつゝめ
とよに山塚坐るれと是ハ西山あり大原社由也

後拾遺

良暹

やとくや月もうらん大原やむらりの志水すじあけを
あまいたし山乃大つら也

今葉

をが山松風さし大原やさこのあめやうしやうらん
西山あり

小野

— 藤原

— 船橋

今葉

今葉

雪はみぢうんひて咲る卯也よとの里人冬さうわとさ

大原らうさ小野也惟るれをこ乃はく— あり

— してすきせ路ひししごん— しよういふひん

くれくもさる— しては雨也松くされをともを

のかりゆえやう補随落寺も小野也あうやう

古十七

忠房

志茂思たきり乃た御一はるの君くれそあらふ

新古今

らこあ

事とく思入おとる候きまなくちあはる月夜

三津

古十七

をてらるやあふみの御焼塩のたはも我若ふけふ

古十一

向あ乃三ののたあはるは草いふは公のまを我意しく

古十七

大とみおのいひうけあねとまはる月あふはあ

古十八

絶筆

雅波^{サカサ}うい^{サカサ}のさたより大舟はあちちけあふ

後撰十七

御波はとくまをさるの浦海にまはるやとく御

巴上掾時國也

古二十

古二十

をくろき記にたを 病のふかおひるる

陸奥也

一カ十

こまきくちりれ中ふとのいなる陸奥よりいぬん
松信也

濱拾也

新中成賢

浪すするころけいよふ海風よあひもきくきりし也
海の國坂本乃三山のい海名

たぐー山ー浦ー候

新勅撰也

鎌倉太夫也

雲のわづらぐらふあつてきりしのもふもあつてあつ

金葉八

紀伊

多にさくさくする海のはらききりし海神の漂もさくさく
る海山 多に海浦きりし國也

第一

大にも其さくさくする海のはらききりし海神の漂もさくさく
古平樹よつこのふとらり

たぐー海ー濱

一カ七

古九

並補

ゆふよあつるふたをせしむるは浦のふたを
ま集まふたは浦のゆふよあつるふたを
りふとあつてとあま

金八

大中は輔弘

まうけにふたの浦のふたをせしむるは浦のふたを
河書は伊勢はもまはううよとあつるとあり

新勅撰

家徳

我まのふたをせしむるは浦のふたをせしむるは浦のふたを

尾張國といふ

あさりー浦ー河ー沼ー山ーの山

万葉

り削る

夕ふれはふたをせしむるは浦のふたをせしむるは浦のふたを

松津國也

万十四

あさりー浦ー河ー沼ー山ーの山

國不分明

古十回

そのの... 万十一

... 陸奥國也

第ハ

市原王

... 尾張也と云

の... の...

古十七

か... 近江也

第ニ

豊國乃... 此の國也

續拾

信正隆年

非... 伊勢也

か... 橋... 濱... 山... 宮

古十五

よみむとまゝに

まゝのちかひありしに揚乃ちなりてとわいふるまのいひそまよる

新古十七

惠慶法師

春牡丹のちかひありしに漢は恥めていふまじき橋こらへいふていふ

百六

短寸

いふはなごころにかなうらまゝもやうにまじりていふ

橋こらへいふていふまじき橋こらへいふていふ

後撰十七

世中といふていふていふていふていふていふていふていふていふ

拾十

後撰十七

いふはなごころにかなうらまゝもやうにまじりていふ

道心也

いふはなごころにかなうらまゝもやうにまじりていふ

いふはなごころにかなうらまゝもやうにまじりていふ

新勅十一

新勅十一

いふはなごころにかなうらまゝもやうにまじりていふ

橋津 伊与 伊与 有因名

後拾一

三嶋の... 是ハ...

猪俣撰十八 好忠

... 猪俣...

一カ十七 好忠

... 越中...

... 野添...

後撰十六 長能

... 近江...

新吉田 其後

はなまの野原のふもとまでいそぐやねん

大和國也

あへーの田圃ー市海ー一海也

百十回

いふくしてのの田圃はあつたのこりたあせも

古平村の田圃

百三

あつたのこりたあせも
國の野原のふもとまでいそぐやねん

續古十

あつた

あつたのこりたあせも
大和國也

あつたのこりたあせも

續後撰

あつた

あつたのこりたあせも

今集

あつたのこりたあせも

川雲 日本 山城也

久知の月乃つゝの山人もどよめあふりよほひの
丹波女大嘗會也

妹くれし月のうらむやあつえと花散らけり
是ハ山城瓦柳川道也今も桂宮けいみやうにいりあり

後九条内大臣

まろよのむちろ月月のあつゝ山まてはく海の中
是ははくゝなを

とまん — 國 — の浦 — 山松

朔二

好忠

山城乃とも國の面はかちをけし海のつちをいそむ
はくをぬ也

五十二

郭とつゝは浦まき波のまてくまはかたよ
國不のまを伊勢とてはく

まゝ島れと山松のちくそ我をまての月
是ハ山城をぬ也

見むろ — 山 — の岩 — 外山

王の死をうらみよとめたるあらまをむじろあつたふあかり

神妙ひろくじろは巻やうろくくえは國の川を水成これ家

いしきも大和國也

さうけみむろと山乃さひよとくさむと六段はゆりとも今

山城國也

たきさけいの毒 あこさよの毒

あだこの毒よふこいほのれは我大老のこいさくれと

續古今

多美

村きくれ美志やそめてしとくははたの毒のまよあん

このふ紀伊國也あ回むをさるこふは流ハ存津

あこさよの毒也

まうちらふ

あこさよひさゆく美のまうちらふあゆんさるあは流そ

たせりーのん けりーのん

てのんけりーのん けりーのん けりーのん

けりーのん

けりー

けりーのん けりーのん けりーのん

けりーのん けりーのん けりーのん

けりーのん

けりー

けりーのん けりーのん けりーのん

けりーのん

けりー

けりーのん けりーのん けりーのん



學知學國
知大
1213
交入
32 3. 14 10

